

避難確保計画

対象災害：水害（洪水 雨水出水 高潮 津波）

【施設名： 南陽ひかり保育園】

2026 年 8 月 作成

基本情報

基本情報

計画の名称 避難確保計画

対象災害 ☒ 洪水 ☒ 雨水出水 ☒ 高潮 ☒ 津波

作成年月 2026 年 8 月

自衛水防組織設置の有無 ☐ 有 ☒ 無

添付ファイル

登録されているファイルはありません

施設情報



※本地図の災害情報は、最新の情報を表示しています。計画作成時の情報と異なる場合がございます。

施設名称 南陽ひかり保育園

事業所番号 1

事業所番号 2

事業所番号 3

事業所番号 4

事業所番号 5

事業所番号 6

事業所番号 7

事業所番号 8

運営主体 民間施設

所在地  港区知多二丁目2401

行政区 港区

学区 福田

担当者 社会福祉法人あさい福祉会

電話番号 0523648373 主メール wakouhoikuen@zbb.jp

補助メール

施設特性 1 社会福祉施設 保育所（民間）

施設特性 2

施設特性 3

施設特性 4

施設特性 5

施設特性 6

施設特性 7

施設特性 8

洪水	0.5～3.0m未満	雨水出水	0.5～3.0m未満
高潮	3.0～5.0m未満	津波	0.5～3.0m未満
土砂災害	対象外		

家屋倒壊等氾濫想定区域内の有無 ☐ 有 ☒ 無

土砂災害（特別）警戒区域における種別 ☐ 土石流 ☐ 急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）

地域防災計画 記載年月 R7.6 削除年月

計画概要

計画の目的

記入例

この計画は、本施設の利用者の洪水時・雨水出水時・高潮時・津波の発生時の円滑かつ迅速な避難の確保を図ることを目的とする。
また、作成した避難確保計画に基づいて、安全な避難行動を確実に行うことができるよう、防災教育や訓練を行い、施設の職員や利用者に対して、洪水・雨水出水・高潮・津波に関する知識を深めるとともに、訓練等を通して課題等を抽出し、必要に応じてこの計画を見直ししていくものとする。

水防法、津波防災地域づくりに関する法律

関連法

施設の概要

利用形態 ☒ 通所 ☐ 入所（長期） ☐ 入所（短期） 建物の階数 2 階

施設の人数

	平日		休日	
	利用者	職員	利用者	職員
昼間	約 100人	約 18人	約 0人	約 0人
夜間	約 0人	約 0人	約 0人	約 0人

施設が有する災害リスク

施設において想定されている災害の種別や災害の大きさ等を記載しましょう。

水害（洪水、雨水出水、高潮、津波）

洪水浸水想定区域（洪水）	☐ 該当なし	最大浸水深	0.5～3.0m未満
	☒ 該当	浸水継続時間	対象外
		家屋倒壊等氾濫想定区域の該当の有無	☒ 該当なし ☐ 該当
雨水出水浸水想定区域（雨水出水）	☐ 該当なし	最大浸水深	0.5～3.0m未満
	☒ 該当	浸水継続時間	対象外

高潮浸水想定区域
(高潮)

☐ 該当なし
☒ 該当

最大浸水深

3.0～5.0m未満

浸水継続時間

対象外

津波災害警戒区域
(津波)

☐ 該当なし
☒ 該当

基準水位

0.5～3.0m未満

津波到達時間

対象外

土砂災害

土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域

☒ 該当なし ☐ 急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）
☐ 該当 ☐ 土石流

河川詳細

対象河川

該当有無

最大浸水深

家屋倒壊等氾濫想定区
域の該当の有無

庄内川

☒ 該当なし ☐ 該当

対象外

☒ 該当なし ☐ 該当

矢田川（国管理）

☒ 該当なし ☐ 該当

対象外

☒ 該当なし ☐ 該当

木曽川

☐ 該当なし ☒ 該当

0.5～3.0m未満

☒ 該当なし ☐ 該当

一級河川木曽川水
系郷瀬川流域

☒ 該当なし ☐ 該当

対象外

☒ 該当なし ☐ 該当

一級河川庄内川水
系矢田川・香流川
流域

☒ 該当なし ☐ 該当

対象外

☒ 該当なし ☐ 該当

一級河川庄内川水
系新川流域

☐ 該当なし ☒ 該当

0.5～3.0m未満

☒ 該当なし ☐ 該当

一級河川庄内川水
系堀川流域

☒ 該当なし ☐ 該当

対象外

☒ 該当なし ☐ 該当

一級河川庄内川水
系八田川流域

☒ 該当なし ☐ 該当

対象外

☒ 該当なし ☐ 該当

一級河川庄内川水
系長戸川・野添川
流域

☒ 該当なし ☐ 該当

対象外

☒ 該当なし ☐ 該当

一級河川庄内川水
系内津川流域

☒ 該当なし ☐ 該当

対象外

☒ 該当なし ☐ 該当

二級河川境川水系
境川・逢妻川流域

☒ 該当なし ☐ 該当

対象外

☒ 該当なし ☐ 該当

二級河川天白川水
系天白川流域

☒ 該当なし ☐ 該当

対象外

☒ 該当なし ☐ 該当

対象河川	該当有無	最大浸水深	家屋倒壊等氾濫想定区域の該当の有無
二級河川山崎川水系山崎川流域	☒ 該当なし ☐ 該当	対象外	☒ 該当なし ☐ 該当
二級河川日光川水系日光川流域	☒ 該当なし ☐ 該当	対象外	☒ 該当なし ☐ 該当

計画の報告

計画を作成又は必要に応じて見直し・修正をしたときは、遅滞なく、当該計画を市町村長へ報告する。

計画の見直し

避難訓練の結果や社会情勢の変化に伴い、定期的に見直すものとする。

防災体制

防災体制【洪水】

記入例

防災体制確立時の組織構成と役割分担

レベル	総括指揮者 全体を指揮 責任者 保育園長 人数 1 名	情報連絡班 情報収集や伝達 責任者 主任保育士 人数 1 名	避難誘導班 利用者の避難支援 責任者 うさぎ・ひよこ担任 人数 2 名	装備品等準備班 設備や装備品等の点検・準備 責任者 きりん・あひる担任 人数 2 名
警戒レベル 1 ↓ 災害への心構えを高める段階	- 状況把握、指揮 - 体制確立の判断	- 気象情報等収集 - 施設職員への情報伝達	(避難誘導体制の確認) (避難ルートの確認)	(避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備)
警戒レベル 2 ↓ 注意体制	- 状況把握、指揮 - 施設職員等招集	- 気象情報、水位情報、避難情報、避難先情報等の収集 - 施設職員へ周知	- 避難誘導体制の確認 - 避難ルートの確認	- 避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備 - 移動用車両の手配
警戒レベル 3 ↓ 警戒体制	- 状況把握、指揮 - 避難先・開始判断（園舎2階、状況により福田小学校へ避難）	- 気象情報、水位情報、避難情報等の収集 - 保護者への連絡 - 法人本部への連絡	避難開始の場合、避難誘導開始	避難開始の場合、避難先への持ち出し品等の運搬
警戒レベル 4 ↓ 非常体制	- 状況把握、指揮 - 避難先での利用者支援の監督	- 法人本部への連絡 - 施設職員への情報伝達	- 避難完了の確認 - 避難先での園児見守り (緊急安全確保の誘導)	避難先での持ち出し品等の管理

レベル	総括指揮者 全体を指揮 責任者 保育園長	情報連絡班 情報収集や伝達 責任者 主任保育士	避難誘導班 利用者の避難支援 責任者 うさぎ・ひよこ担任	装備品等準備班 設備や装備品等の点検・準備 責任者 きりん・あひる担任
	(緊急安全確保の判断)			

警戒レベル1
↓
災害への心構えを高める段階

- 早期注意情報（警報級の可能性）の「中」または「高」が発表された場合
- 台風の接近が予想されている場合

警戒レベル2 ↓ 注意体制	- レベル2 大雨注意報が発表された場合 - 木曽川レベル2 氾濫注意報が発表された場合 - 一級河川庄内川水系新川流域レベル2 氾濫注意報が発表された場合
警戒レベル3 ↓ 警戒体制	- 高齢者等避難が発令された場合 - レベル3 大雨警報が発表された場合 - 木曽川レベル3 氾濫警報が発表された場合 - 一級河川庄内川水系新川流域レベル3 氾濫警報が発表された場合
警戒レベル4 ↓ 非常体制	- 避難指示が発令された場合 - レベル4 大雨危険警報が発表された場合 - 木曽川レベル4 氾濫危険警報が発表された場合 - 一級河川庄内川水系新川流域レベル4 氾濫危険警報が発表された場合

事前休業の判断について

避難指示（警戒レベル4）、高齢者等避難（警戒レベル3）、防災気象情報のレベル5 特別警報、レベル4 危険警報が発令・発表された場合、解除されるまで臨時休園とする。ただし、レベル4 危険警報のみ発表されており、避難情報が発令されていない場合は、暴風警報と同様の取り扱いとする。（暴風警報：午前6時現在発令されており継続が予想される場合は、当園を見合わせるよう保護者に依頼する。）

事前休業の判断基準となる防災気象情報等

【防災気象情報】

レベル3 大雨警報、レベル4 大雨危険警報、レベル5 大雨特別警報
レベル3 氾濫警報、レベル4 氾濫危険警報、レベル5 氾濫特別警報

【避難情報】

高齢者等避難
避難指示

開業時間と利用者の通所にかかる時間を考慮して、休業の判断をする。

防災体制確立時の組織構成と役割分担

レベル	総括指揮者 全体を指揮 責任者 保育園長 人数 1 名	情報連絡班 情報収集や伝達 責任者 主任保育士 人数 1 名	避難誘導班 利用者の避難支援 責任者 うさぎ・ひよこ担任 人数 2 名	装備品等準備班 設備や装備品等の点検・準備 責任者 きりん・あひる担任 人数 2 名
警戒レベル 1 ↓ 災害への心構えを高める段階	- 状況把握、指揮 - 体制確立の判断	- 気象情報等収集 - 施設職員への情報伝達	(避難誘導体制の確認) (避難ルートの確認)	(避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備)
警戒レベル 2 ↓ 注意体制	- 状況把握、指揮 - 施設職員等招集	- 気象情報、水位情報、避難情報、避難先情報等の収集 - 施設職員へ周知	- 避難誘導体制の確認 - 避難ルートの確認	- 避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備 - 移動用車両の手配
警戒レベル 3 ↓ 警戒体制	- 状況把握、指揮 - 避難先・開始判断（園舎2階、状況により福田小学校へ避難）	- 気象情報、水位情報、避難情報等の収集 - 保護者への連絡 - 法人本部への連絡	避難開始の場合、避難誘導開始	避難開始の場合、避難先への持ち出し品等の運搬
警戒レベル 4 ↓ 非常体制	- 状況把握、指揮 - 避難先での利用者支援の監督 (緊急安全確保の判断)	- 法人本部への連絡 - 施設職員への情報伝達	- 避難完了の確認 - 避難先での園児見守り (緊急安全確保の誘導)	避難先での持ち出し品等の管理

警戒レベル1
↓
災害への心構えを高める段階

- 早期注意情報（警報級の可能性）の「中」または「高」が発表された場合
- 台風の接近が予想されている場合

警戒レベル2 ↓ 注意体制	- レベル2大雨注意報が発表された場合 - 木曽川レベル2氾濫注意報が発表された場合 - 一級河川庄内川水系新川流域レベル2氾濫注意報が発表された場合
警戒レベル3 ↓ 警戒体制	- 高齢者等避難が発令された場合 - レベル3大雨警報が発表された場合 - 木曽川レベル3氾濫警報が発表された場合 - 一級河川庄内川水系新川流域レベル3氾濫警報が発表された場合
警戒レベル4 ↓ 非常体制	- 避難指示が発令された場合 - 雨水出水氾濫危険情報が発表された場合 - レベル4大雨危険警報が発表された場合 - 木曽川レベル4氾濫危険警報が発表された場合 - 一級河川庄内川水系新川流域レベル4氾濫危険警報が発表された場合

事前休業の判断について

避難指示（警戒レベル4）、高齢者等避難（警戒レベル3）、防災気象情報のレベル5特別警報、レベル4危険警報が発令・発表された場合、解除されるまで臨時休園とする。ただし、レベル4危険警報のみ発表されており、避難情報が発令されていない場合は、暴風警報と同様の取り扱いとする。（暴風警報：午前6時現在発令されており継続が予想される場合は、当園を見合わせるよう保護者に依頼する。）

事前休業の判断基準となる防災気象情報等

【防災気象情報】

レベル3大雨警報、レベル4大雨危険警報、レベル5大雨特別警報
レベル3氾濫警報、レベル4氾濫危険警報、レベル5氾濫特別警報

【避難情報】

高齢者等避難
避難指示

開業時間と利用者の通所にかかる時間を考慮して、休業の判断をする。

防災体制【高潮】

記入例

防災体制確立時の組織構成と役割分担

レベル	総括指揮者 全体を指揮	情報連絡班 情報収集や伝達	避難誘導班 利用者の避難支援	装備品等準備班 設備や装備品等の点検・準備
責任者	保育園長	主任保育士	うさぎ・ひよこ担任	きりん・あひる担任
警戒レベル1	人数 1 名	人数 1 名	人数 2 名	人数 2 名
↓ 災害への心構えを高める段階	- 状況把握、指揮 - 体制確立の判断	- 気象情報等収集 - 施設職員への情報伝達	（避難誘導体制の確認） （避難ルートの確認）	（避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備）

レベル	総括指揮者 全体を指揮 責任者 保育園長	情報連絡班 情報収集や伝達 責任者 主任保育士	避難誘導班 利用者の避難支援 責任者 うさぎ・ひよこ担任	装備品等準備班 設備や装備品等の点検・準備 責任者 きりん・あひる担任
-----	----------------------------	-------------------------------	------------------------------------	---

警戒レベル 2 ↓ 注意体制	人数 1 名	人数 1 名	人数 12 名	人数 4 名
	- 状況把握、指揮 - 施設職員等招集	- 気象情報、水位情報、避難情報、避難先情報等の収集 - 施設職員へ周知	- 避難誘導体制の確認 - 避難ルートの確認	- 避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備 - 移動用車両の手配
警戒レベル 3 ↓ 警戒体制	人数 1 名	人数 1 名	人数 12 名	人数 4 名
	- 状況把握、指揮 - 避難先・開始判断（園舎2階、状況により福田小学校へ避難）	- 気象情報、水位情報、避難情報等の収集 - 保護者への連絡 - 法人本部への連絡	避難開始の場合、避難誘導開始	避難開始の場合、避難先への持ち出し品等の運搬
警戒レベル 4 ↓ 非常体制	人数 1 名	人数 1 名	人数 14 名	人数 2 名
	- 状況把握、指揮 - 避難先での利用者支援の監督 （緊急安全確保の判断）	- 法人本部への連絡 - 施設職員への情報伝達	- 避難完了の確認 - 避難先での園児見守り （緊急安全確保の誘導）	避難先での持ち出し品等の管理

警戒レベル1
↓
災害への心構えを高める段階

- 早期注意情報（警報級の可能性）の「中」または「高」が発表された場合
- 台風の接近が予想されている場合

警戒レベル2
↓
注意体制

- レベル2 高潮注意報が発表された場合

警戒レベル3
↓
警戒体制

- 高齢者等避難が発令された場合
- レベル3 高潮警報が発表された場合

警戒レベル4



非常体制

- ・ 避難指示が発令された場合
- ・ レベル4 高潮危険警報が発表された場合

事前休業の判断について

避難指示（警戒レベル4）、高齢者等避難（警戒レベル3）、防災気象情報のレベル5 特別警報、レベル4 危険警報が発令・発表された場合、解除されるまで臨時休園とする。ただし、レベル4 危険警報のみ発表されており、避難情報が発令されていない場合は、暴風警報と同様の取り扱いとする。（暴風警報：午前6時現在発令されており継続が予想される場合は、当園を見合わせるよう保護者に依頼する。）

事前休業の判断基準となる防災気象情報等

【防災気象情報】

レベル3 高潮警報、レベル4 高潮危険警報、レベル5 高潮特別警報

【避難情報】

高齢者等避難

避難指示

開業時間と利用者の通所にかかる時間を考慮して、休業の判断をする。

防災体制【津波（到達時間が短い場合）】

記入例

防災体制確立時の組織構成と役割分担

レベル	総括指揮者	情報連絡班	避難誘導班	装備品等準備班
	全体を指揮 責任者 保育園長	情報収集や伝達 責任者 主任保育士	利用者の避難支援 責任者 うさぎ・ひよこ担任	設備や装備品等の点検・準備 責任者 きりん・あひる担任
警戒レベル3 ↓ 警戒体制	人数 1 名 ・ 状況把握、指揮 ・ 避難先・開始判断（園舎2階、状況により福田小学校へ避難）	人数 1 名 ・ 気象情報、水位情報、避難情報等の収集 ・ 保護者への連絡 ・ 法人本部への連絡	人数 12 名 ・ 避難開始の場合、避難誘導開始	人数 4 名 ・ 避難開始の場合、避難先への持ち出し品等の運搬
警戒レベル4 ↓ 非常体制	人数 1 名 ・ 状況把握、指揮 ・ 避難先での利用者支援の監視	人数 1 名 ・ 法人本部への連絡 ・ 施設職員への情報伝達	人数 14 名 ・ 避難完了の確認 ・ 避難先での園児見守り	人数 2 名 ・ 避難先での持ち出し品等の管理

レベル	総括指揮者 全体を指揮 責任者 保育園長	情報連絡班 情報収集や伝達 責任者 主任保育士	避難誘導班 利用者の避難支援 責任者 うさぎ・ひよこ担任	装備品等準備班 設備や装備品等の点検・準備 責任者 きりん・あひる担任
	（緊急安全確保の判断）		（緊急安全確保の誘導）	

警戒レベル3 ↓ 警戒体制	- 地震に伴う強い揺れ又は長時間ゆっくりとした揺れを感じた場合 - 津波注意報、津波警報、大津波警報が発表された場合 - 避難指示が発令された場合
---------------------	---

津波は 20cm から 30cm 程度の高さであっても、急で強い流れが生じるため、これに巻き込まれて流されれば、命を脅かされる可能性があることから、大津波警報・津波警報・津波注意報のいずれが発表された場合であっても、危険な地域からの一刻も早い避難行動をとる必要がある。

また、震源が沿岸に近い場合は地震発生から津波来襲までの時間が短いことから、少しでも早く避難する必要があり、津波災害警戒区域等に居るときに強い揺れ（震度 4 程度以上）又は長時間ゆっくりとした揺れを感じた者は、気象庁の津波警報等の発表や市町村からの避難指示の発令を待たずに、自主的かつ速やかに避難行動をとることが必要である。

防災体制【津波（到達時間が長い場合）】

記入例

防災体制確立時の組織構成と役割分担

レベル	総括指揮者 全体を指揮 責任者 保育園長	情報連絡班 情報収集や伝達 責任者 主任保育士	避難誘導班 利用者の避難支援 責任者 うさぎ・ひよこ担任	装備品等準備班 設備や装備品等の点検・準備 責任者 きりん・あひる担任
警戒レベル2 ↓ 注意体制	人数 1 名 - 状況把握、指揮 - 施設職員等招集	人数 1 名 - 気象情報、水位情報、避難情報、避難先情報等の収集 - 施設職員へ周知	人数 12 名 - 避難誘導体制の確認 - 避難ルートの確認	人数 4 名 - 避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備 - 移動用車両の手配
警戒レベル3 ↓ 警戒体制	人数 1 名	人数 1 名	人数 12 名	人数 4 名

レベル	総括指揮者 全体を指揮	情報連絡班 情報収集や伝達	避難誘導班 利用者の避難支援	装備品等準備班 設備や装備品等の点検・準備
	責任者 保育園長	責任者 主任保育士	責任者 うさぎ・ひよこ担任	責任者 きりん・あひる担任
	- 状況把握、指揮 - 避難先・開始判断（園舎2階、状況により福田小学校へ避難）	- 気象情報、水位情報、避難情報等の収集 - 保護者への連絡 - 法人本部への連絡	避難開始の場合、避難誘導開始	避難開始の場合、避難先への持出し品等の運搬

警戒レベル 4 ↓ 非常体制	人数 1 名	人数 1 名	人数 14 名	人数 2 名
	- 状況把握、指揮 - 避難先での利用者支援の監督 （緊急安全確保の判断）	- 法人本部への連絡 - 施設職員への情報伝達	- 避難完了の確認 - 避難先での園児見守り （緊急安全確保の誘導）	避難先での持ち出し品等の管理

警戒レベル2 ↓ 注意体制	「遠地地震に関する情報」の中で津波の到達予想時刻等の情報が発表された場合
警戒レベル3 ↓ 警戒体制	- 高齢者等避難が発令された場合 - 津波注意報、津波警報、大津波警報が発表された場合 - 避難指示が発令された場合

我が国から遠く離れた場所で発生した地震に伴う津波のように到達までに相当の時間があるものについては、気象庁が、津波警報等が発表される前から津波の到達予想時刻等の情報を「遠地地震に関する情報」の中で発表する場合がある。

市町村は、この「遠地地震に関する情報」の後に津波警報等が発表される可能性があることを認識し、津波警報等の発表前であっても、必要に応じて高齢者等避難の発令を検討するものとなっている。

施設利用者の人数や特性等から、施設利用者の避難完了に多くの時間を要する場合には、気象庁の津波警報等の発表や市町村からの避難指示の発令を待たずに、自主的かつ速やかに避難行動をとることが必要である。

情報収集・伝達

情報収集・伝達

記入例

情報収集

収集する主な情報及び収集方法は、以下のとおりとする。

	収集すべき情報	入手先
共通の情報	【防災気象情報（気象庁）】 ・ 早期注意情報（警報級の可能性）	・ テレビ、ラジオ、気象庁HP ・ 名古屋市防災アプリ 等
	【避難情報（市町村）】 ・ 警戒レベル3 高齢者等避難 ・ 警戒レベル4 避難指示 ・ 警戒レベル5 緊急安全確保	・ テレビ、ラジオ、気象庁HP ・ 名古屋市のHP ・ 名古屋市防災アプリ ・ 緊急速報メール 等
	【避難所の開設状況（市町村）】 ・ 指定緊急避難場所や福祉避難所の開設状況	・ テレビ・ラジオ ・ 名古屋市HP （災害時！最寄りの避難所開設情報） 等
	道路の通行止め情報	・ 日本道路交通情報センターのHP 等
洪水	・ レベル2大雨注意報、レベル3大雨警報、 レベル4大雨危険警報、レベル5大雨特別警報 ・ 大雨キキクル（大雨に関する警報等の危険度分布） ・ 洪水予報 レベル2氾濫注意報、レベル3氾濫警報、 レベル4氾濫危険警報、レベル5氾濫特別警報	・ テレビ、ラジオ、気象庁HP ・ 気象庁HP ・ 川の防災情報のHP

	収集すべき情報	入手先
雨水出水	- レベル2大雨注意報、レベル3大雨警報、 レベル4大雨危険警報、レベル5大雨特別警報 - 雨水出水氾濫危険情報 (水位周知下水道において発表される情報)	- テレビ、ラジオ、気象庁HP - 愛知県・名古屋市のHP - 名古屋市防災アプリ 等
高潮	レベル2高潮注意報、レベル3高潮警報、 レベル4高潮危険警報、レベル5高潮特別警報	- テレビ、ラジオ、気象庁HP - 名古屋市防災アプリ 等
津波	津波注意報、津波警報、大津波警報	- テレビ、ラジオ、気象庁HP - 防災アプリ - 緊急速報メール 等

情報伝達

	対象情報	主な入手先	伝達内容	情報伝達の流れ	
				発信者	情報伝達先
警戒レベル 1	早期注意情報	インターネット (気象庁HP)	大雨の警報級の可能性「高」が発表されました。災害への心構えを高める段階です。	情報連絡班	施設職員
	レベル2 氾濫注意報	インターネット (川の防災情報)	木曽川（又は新川）にレベル2 氾濫注意報が発表されました。注意体制をとる段階です。	情報連絡班	施設職員
警戒レベル 2	レベル2 大雨注意報	インターネット (気象庁HP)	レベル2 大雨注意報が発表されました。注意体制をとる段階です。	情報連絡班	施設職員
	レベル2 高潮注意報	インターネット (気象庁HP)	レベル2 高潮注意報が発表されました。注意体制をとる段階です。	情報連絡班	施設職員
警戒レベル 3	高齢者等避難	インターネット等 (緊急速報メール)	高齢者等避難が発令されました。	情報連絡班	施設職員 保護者
	レベル3 氾濫警報	インターネット (川の防災情報)	木曽川（又は新川）にレベル3 氾濫警報が発表されました。警戒体制をとる段階です。	情報連絡班	施設職員 保護者
	レベル3 大雨警報	インターネット (気象庁HP)	レベル3 大雨警報が発表されました。警戒体制をとる段階です。	情報連絡班	施設職員 保護者
	レベル3 高潮警報	インターネット (気象庁HP)	レベル3 高潮警報が発表されました。警戒体制をとる段階です。	情報連絡班	施設職員 保護者
	津波注意報・津波警報・大津波警報	インターネット (気象庁HP)	津波注意報（又は津波警報、大津波警報）が発表されました。警戒体制をとる段階です。	情報連絡班	施設職員 保護者
	避難指示	インターネット等 (緊急速報メール)	避難指示が発令されました。	情報連絡班	施設職員 保護者
	レベル4 氾濫危険警報	インターネット	〇〇川にレベル4 氾濫危険警報が発表されました。	情報連絡班	施設職員

警戒レベル 4	(川の防災 情報)		非常体制をとる段階です。		保護者
	レベル4大雨危険 警報	インターネ ット (気象庁 HP)	レベル4大雨危険警報が発表されました。 非常体制をとる段階です。	情報連 絡班	施設職 員 保護者
	レベル4高潮危険 警報	インターネ ット (気象庁 HP)	レベル4高潮危険警報が発表されました。 非常体制をとる段階です。	情報連 絡班	施設職 員 保護者

避難誘導

避難誘導

記入例

避難先、移動距離及び避難方法

避難場所及び屋内安全確保を図る場所は下表のとおりとする。

津波ハザードマップによると、保育園周辺の浸水30cmに到達するまでの時間は120-240分、避難場所の福田小学校周辺で240-480分。津波は50cm程度でも車が流されるほどの力を持っていると言われている。至急保護者の迎えが必要となるが、福田小学校への避難が遅れないよう状況判断する。

洪水	避難先	移動距離	避難方法			移動に要する時間	避難開始基準	避難階
			徒歩	車両	その他機材			
系列施設や他の同種類似施設			☐	☐	0 台			階
指定緊急避難場所			☐	☐	0 台			階
近隣の安全な場所			☐	☐	0 台			階
屋内安全確保	2階 遊戯室等	0 m	徒歩			5分	レベル4危険警報、レベル5特別警報、高齢者等避難、避難指示	2 階

該当する災害リスク：0.5～3.0m未満（2階以上への避難が必要）

雨水出水	避難先	移動距離	避難方法			移動に要する時間	避難開始基準	避難階
			徒歩	車両	その他機材			
系列施設や他の同種類似施設			☐	☐	0 台			階
指定緊急避難場所			☐	☐	0 台			階
近隣の安全な場所			☐	☐	0 台			階
屋内安全確保	2 階 遊戯室等	0 m	徒歩			5 分	レベル4危険警報、レベル5特別警報、高齢者等避難、避難指示	2 階

該当する災害リスク：0.5～3.0m未満（2階以上への避難が必要）

高潮	避難先	移動距離	避難方法			移動に要する時間	避難開始基準	避難階
			徒歩	車両	その他機材			
系列施設や他の同種類似施設			☐	☐	0 台			階
指定緊急避難場所	 福田小学校 (589 m)		☒	☒	1 台 散歩車 2, ベビーカー 1	1 5 分	レベル4危険警報、レベル5特別警報、高齢者等避難、避難指示	3 階

洪水：一級河川庄内川水系新川流域 0.0～0.5m未満、木曽川 0.5～3.0m未満
津波：0.0～0.5m未満
高潮：3.0～5.0m未満

高潮	避難先	移動距離	避難方法			移動に要する時間	避難開始基準	避難階
			徒歩	車両	その他機材			
近隣の安全な場所			☐	☐	0 台			階
屋内安全確保		0 m						階

該当する災害リスク：3.0～5.0m未満（3階以上への避難が必要）

津波	避難先	移動距離	避難方法			移動に要する時間	避難開始基準	避難階	
			徒歩	車両	その他機材				
系列施設や他の同種類似施設			☐	☐	0 台			階	
指定緊急避難場所	福田小学校 (589 m)		☒	☒	1 台	散歩車 2, ベ ビーカ ー1	15分	報、 レベ ル5 特別 警 報、 高齢 者等 避難、 避難 指示	3 階

洪水：一級河川庄内川水系新川流域 0.0～0.5m未満、木曽川 0.5～3.0m未満
津波：0.0～0.5m未満
高潮：3.0～5.0m未満

高潮	避難先	移動距離	徒歩	車両	その他機材	移動に要する時間	避難開始基準	避難階
近隣の安全な場所			☐	☐	0 台			階

以下に該当するか検討の上、屋内安全確保を選択するかどうかを慎重に判断する

- ・ 家屋倒壊等氾濫想定区域、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域、津波による浸水のおそれがある区域に存していないこと
- ・ 浸水しない居室があること
- ・ 一定期間浸水することにより生じる可能性がある支障を許容できること

緊急安全確保

急激に災害が切迫することにより（警戒レベル5 緊急安全確保の発出などが目安）、避難確保計画に定めた場所への避難を安全にできないような、過酷な事象に遭遇した場合は以下の場所に緊急的に移動する

※本行動は、災害が発生・切迫した段階での対処であり、本来は立ち退き避難をすべきだったが、避難し遅れた際にとる次善の行動である点に留意する。

【近隣の津波避難ビル】東海通・七反野交差点・北西ブロックに所在する第二コーポ豊、第五コーポ豊、アベニュー南陽町

避難経路

避難先までの避難経路は、【施設周辺の避難地図】【施設建物内の避難経路図】のとおりとする。
避難先は、避難訓練等により避難できることを確かめ、必要に応じ見直しするものとする。

【施設周辺の避難地図】



※本地図の災害情報は、最新の情報を表示しています。計画作成時の情報と異なる場合がございます。

【施設建物内の避難経路図】

画像ファイルが登録されていません

設備・備蓄

避難に必要な設備の整備

[記入例](#)

避難誘導の際に使用する設備等については、下表に示すとおりである。これらの設備等については、日頃からその維持管理に努めるものとする。

分類	設備等	数量	設置場所、保存場所
通常の設備	散歩車2、ベビーカー1	3	屋外倉庫（砂場横）
	屋外2階からのスロープ	1	
緊急時の設備	簡易トイレテント	2	休憩室
	簡易トイレ	100	休憩室

避難に必要な装備品や備蓄品の整備

避難に必要な装備品や備蓄品等の例については、下表に示すとおりである。これらの装備品や備蓄品等については、日頃からその維持管理に努めるものとする。

分類	装備品や備蓄品等	数量	設置場所、保存場所
情報収集・伝達	テレビやラジオ	3	事務室
	インターネットに接続したパソコンやタブレット端末	18	事務室・各教室
	電話やファックス	1	事務室
	携帯電話やスマートフォン	20	事務室、各職員
	電池	85	事務室
避難誘導	名簿（施設利用者）	10	事務室、各教室
	ビブス	1	ひよこ組
	懐中電灯	7	事務室、各教室
	ハンドマイク	1	事務室
	ヘルメット	20	事務室、各教室
	避難ルートを示したマップ	1	事務室
	救急用品	6	事務室、各教室
	移動用の車両（軽自動車 4 人乗り）	1	駐車場
	水や食糧（日分）	3	給食室、遊戯室、教室
	紙パンツ、おしり拭き（日分）	3	遊戯室
避難先	電池や携帯充電器	27	事務室
	スプーン、紙コップ、スープカップ	200	遊戯室
	紙皿	110	遊戯室
	ガスコンロ	3	遊戯室、給食室
	カセットボンベ	6	遊戯室、給食室
	哺乳ボトル	32	遊戯室

防災教育及び訓練

防災教育及び訓練の実施に関する事項

記入例

防災教育及び訓練の年間計画

避難確保計画の作成＝防災体制の確立

実施予定時期



避難確保計画の周知

- 施設職員、利用者や利用者の家族、避難支援協力者に電子データなどで避難確保計画を共有し、周知する

4 月頃

施設職員、避難支援
協力者への防災教育

- 水害・土砂災害の危険性や避難場所の確認
- 過去の被災経験や災害に対する知恵の伝承 等

4 月頃

利用者、施設利用者の
家族への防災教育

- 水害・土砂災害の危険性や避難場所の確認
- 緊急時の対応等に関する保護者・家族等への説明 等

月頃

毎月、火災を含めた各種災害を想定した避難訓練を実施。訓練模様を保護者にSNS報告。



情報収集、情報伝達
訓練

- 施設職員の緊急連絡網の試行
- 保護者・家族等への情報伝達手段（メール・電話等）の確認、情報伝達の試行 等

月頃

毎月、避難訓練を実施。保護者に訓練模様をSNS報告。

立退き避難訓練

- 避難経路ごとに避難方法（車、徒歩など）を確認
- 施設から避難先までの避難に要する時間の計測 等

11 月頃

福田小学校と調整の上、実施

屋内安全確保訓練

- 避難方法の確認
- 避難に要する時間の計測 等

月頃

毎月



避難訓練結果の振り返り

- 訓練終了後に参加者全員で訓練を振り返る
- 訓練計画時に決めた訓練の目的・目標について達成度を確認し、その後、個別の反省点や行動等について意見交換する

月頃

毎月の訓練ごとに振り返り



市町村への避難訓練結果の報告

- システム内の訓練実施報告の様式に基づき名古屋市に訓練結果を報告する

3 月頃



避難確保計画の見直し

- 振り返りであげられた意見や問題点を踏まえて、避難確保計画を見直す

3 月頃